

体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間 9:00～16:30
休館日 月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2025年12月26日～2026年1月2日）
臨時休館日 2026年1月6日、2月3日
入場料 一般 300(240)円 高大学生 150(120)円
※中学生以下と65歳以上無料
※障害者手帳をお持ちの方と介護者1名無料

瓦 版

大木戸

Kawaraban OKIDO
Vol. 75

2025年（令和7年）9月30日

編集・発行

千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL. 0476-95-3333
<https://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>

屋外展示

「千葉の民俗芸能

房総獅子舞祭」

千葉県では、古くから各地で様々な民俗芸能が行われてきました。その内容は、神楽や囃子、歌など多岐にわたります。

十月十八日（土）より上総の農家で開催される本展示では、千葉県内の獅子舞に焦点を当て、ご紹介いたします。

獅子舞とは獅子頭を被り、舞や踊りを披露する民俗芸能で、古代インドが発祥、中国・朝鮮で発達したと伝わっています。日本の歴史は、六百十二年に伎楽が伝わった際の演目に登場したことが始まりとされています。伊勢信仰の伊勢大神楽師たちが全国を巡ったことで広がり、各地でさらに独自の色を持ち始めました。

呼び方や区別方法は様々ありますが、神事的要素を持つているものや、二人で一頭の獅子を演じる二人立ち獅子舞を「伎楽系」、娯乐的要素を持つているもの、一人で一頭の獅子を演じる一人立ち獅子舞を「風流系」と称

することが多いです。

千葉県に数ある獅子舞の中から、今回の展示では大網白里市の「永田旭連の獅子舞」、印西市「平岡鳥見神社の獅子舞」、長生村「岩沼の獅子舞」について紹介します。

大網白里市の「永田旭連の獅子舞」は大網白里市永田地区に伝わる獅子舞で、ほとんどが伎楽系の演目で、毎年春と秋の二回、矢口神社へ奉納します。演目の一つに「お染獅子」があります。お染獅子は現在、日本国内であり見ることのできない貴重な演目です。この演目には獅子の他にひよつとこやおかめが登場します。昭和五十五年には市の無形文化財に指定されました。

三匹の獅子舞をそれぞれ「ジジ」「セナ」「カ」と呼び、兵児帯を結めることが特徴的な印西市の「平岡鳥見神社の獅子舞」は県指定無形民俗文化財となっており、平岡の鳥見神社へ五月三日に奉納を行っています。一人立

ち獅子舞で三人一組で演じます。三匹獅子舞は上総・安房地方では腹部の太鼓（鞆鼓）にちなみ、「かつこ舞」と呼ぶこともあります。

長生村の「岩沼の獅子舞」は皇産霊神社で十月に行われる祭りの際に演じられる高さ二十メートルほどの梯子の上で舞う獅子舞です。江戸時代に本納（茂原市）から伝承されたといわれています。岩沼の獅子舞は昭和三十六年に県指定無形民俗文化財に指定されました。梯子獅子舞は令和元年時点で千葉県内に六ヶ所現存しているとされます。

また、本展示の関連事業として、十一月二十三日（日・祝）にはご紹介しました各団体様の獅子舞の上演を予定しております。この日はパネル展示だけでなく、それぞれ異なる特色を持つ獅子の様子を間近でぜひご覧ください。

（広報普及グループ 岩瀬）



「獅子神楽」

永田旭連の獅子舞（大網白里市）
（大網白里市教育委員会提供）



「三匹獅子」

平岡鳥見神社の獅子舞（印西市）
（印西市教育委員会提供）



「梯子獅子」

岩沼の獅子舞（長生村）
（長生村教育委員会提供）

農家 下総の農家

「かかし作り」

田んぼに立っている人形をなぜ「かかし」と呼ぶのでしょうか。かかしの語源は諸説ありますが、もともと「嗅がし」という言葉が用いられていました。その昔、鳥や獣から農作物を守るため、しめ縄を張ったり引板や鹿おどしと呼ばれる道具で音を鳴らし鳥獣を追い払っていました。しかし、それだけでは動物たちが徐々になれてしまい、その効果が薄れていきました。そこで、クサイ臭いのするイノシシの毛皮を竹竿に吊るしたり、動物の毛を焼いたものをしめ縄にぶら下げて臭いを出して追い払うことにしたのです。このことから、臭いがかがせるの意で「嗅がし」かかし」の名がついたといわれています。

また、もう一方でかかしは、田の神を象徴するものでもありました。人の形をしたかかしは、神の依り代として崇められていました。『古事記』には「久延毘古とは山田の曾富騰」



かかしの胴体の部分は
わらを束ねて作ります

と記されています。山田の曾富騰は、かかしの古い呼び名で、田の神、農業の神として祀られていました。一日中、田の中に立って世の中を見ているかかしは、天下のことは何でも知っていると尊ばれ、信仰の対象として祀られるようになりました。

時代とともにかかしの姿は変化してきましたが、人々にとってもかかしは、田・畑の農作物を守り続ける大切な存在でした。

下総の農家では、令和七年六月八日（日）に「かかし作り」の体験を行いました。かかし作りは毎年好評で、たくさんの方々に参加していただきました。体験者の皆さんが作ったかかしたちがむらの田畑を守ってくれています。今年の秋は、お米や野菜が豊作になりますように願いを込めて。

（農家グループ水島）



むらの畑を
守ってくれている
かかしのゆみこちゃん

商家 川魚の店

「つなぎ」

房総のむらでは七月と九月にうなぎを使った体験を実施しています。七月は土用の丑の日があるので、それに関連して「うなぎの蒲焼」、九月は「うなぎ裂きの技」として外部講師の指導のもと本格的な技を習います。

三方を海に囲まれ、利根川も通る千葉県はうなぎの産地として有名です。成田山参道にも名店が軒を連ね、香ばしいタレのにおいが参拝者を誘います。

そんな日本の食文化に欠かせないうなぎですが、おいしく食べるには「毒」を抜く必要があります。うなぎの血に含まれる毒は、「イクチヘキントシン」と呼ばれます。摂取した場合、下痢や嘔吐、麻痺を引き起こします。そのため、うなぎ職人には「串打ち三年、裂き八年、焼きは一生」というように長い年月が必要となります。うなぎの刺身をあまり見かけないのはこの毒によるためですが、最近では食べられるところも出てきているようです。

他にも毒で有名なふぐは、通常の調理師免許と異なる「ふぐ調理師免許」を取得した者でないと取り扱いきません。魚以外にもじゃがいもの芽、青梅、ビワの種も猛毒です。毒ではありませんが、とれたての卵殻にはサルモネラ菌が付着しています（店頭で売っているものは殺菌済のものです）。

このように普段何気なく食べている食材にも、一歩間違えば死に至るような毒が含まれています。それをわたしたちの祖先は「調理」

という方法で毒を消し、おいしく食べられるようにしてきました。

その歴史は縄文時代にまで遡ります。縄文人の主食の一つであるどんぐりは、そのままで食べるとひどいえぐみがあります。それを縄文人は水に晒し、アク抜きすることで食べられるようにしました。

わたしたちが今食べている料理の数々は、食べられないものを「どうにか食べられないか」と考えた先人たちの飽くなき食への探究心の結果なのです。

（商家グループ 大角）



うなぎの蒲焼



うなぎ裂きの技

風土記の丘資料館

ボランティアによる自然観察会ガイド

房総のむらは多くの自然に囲まれている場所です。動物や虫はもちろん、色々な植物も生えています。

そのようなむらの自然をボランティアの方の解説付きでご案内するのが、風土記の丘資料館の体験演目の一つである「ボランティアによる自然観察会」です。

ボランティアの方三名ほどで、お客様をガイドしています。参加者の方もただ解説を聞いているのではなく、自分の興味があるものなどは積極的に質問をしたり、参加者同士で、自分の知っている植物の知識を教え合ったりしています。花の見頃時期や名前の由来、毒草の知識のある方もいました。農家の中を歩いたときには、畑で育てている野菜の話やその周辺の雑草にいた虫について話していました。参加者の皆さまは、周囲をよく見ていて自分が気になった所は、すぐに調べ、周りの人に聞いたりと好奇心



ガイド風景①



ガイド風景②

心旺盛に動いています。

特にこの時は、森を歩いているときによく見かけたキノコ類に関心があったようです。地面や木に付いているキノコを見つけてはすぐに写真を撮ったり、これは毒があるのか、食べられるのかなど、いろいろと話していた姿が印象的でした。水車小屋付近を歩いていた時は、稲の話などになり、農家の体験演目の米作りに関心がある人がいて、お米の田植えや、収穫時期のことなどを話していました。

森の中を歩いていたときに聞こえた、鳥の鳴き声や虫の羽音など、周囲の小さな動きや変化にアンテナを張って、新しい発見を探しながら歩いていました。その中でも、自分の気になったものを高性能カメラで頻繁に撮っていた人は、他の参加者から、「あとでよく見せてください」などと声をかけられていました。自然が好きな人同士で集まっているので、自然と参加者の間で交流の輪が広がって行くのを見ると、職員として嬉しくなります。

(風土記グループ 高林)

ボランティア

緑のボランティア活動記録

房総のむらでは、緑のボランティアという活動を行っています。

緑のボランティアは現在五名で活動し、館内及び無料エリアの生垣や竹垣の整備、樹木の剪定などを中心とした環境整備活動を行っています。

今年度はまず、上総の農家のやまももの剪定と杉塀の刈込みを行いました。やまももの木は約五メートルの高さがありますが、ボランティアの方々は大きな園芸用の三脚を使い、時には木に登り、慣れた手つきで枝を切り落としていきます。他のボランティアの方々は、切り落とされた枝を集め捨てに行きます。皆さんそれぞれの役割を果たし、協力して作業をすすめていました。

上総の農家の杉塀の整備を行った際には、ボランティアの方は、杉塀は外側の枝葉を刈り込むだけでなく、内側の枯れた葉も落とさなければきれいな塀にならないと話します。経験豊富なボランティアの方と接すると今まで知らなかったことを知ることができ、大変



作業風景①



作業風景②

(商家グループ 宮内)

勉強になります。皆さんは裏側と表側両面から刈り込み、整った塀を作り上げました。次に、下総の農家の機小屋の前にあるひょうたん棚を作り替える作業を行いました。まずは太い棒を六本立てます。そこによこ棒を渡して丁字の金具を取り付けて梁を作りまします。脚立に乗りながら金具を取り付ける作業はとても骨の折れる作業です。そして、梁と梁に長い竹を渡し、棕櫚縄で縛ります。ペテランのボランティアの方が別のボランティアの方に縄の縛り方を教えながら作業を進めていきます。こうして技術が伝わっていくのだなと思います。

強い日差しが降り注ぐ中、皆さん汗だくになりながら作業を行ってくださったおかげで、立派なひょうたん棚が完成しました。

緑のボランティアは夏の期間は活動を休止し、秋から再開します。これからも緑のボランティアの活動にご期待ください。

まつり

むらの縁日・夕涼み

房総のむらでは、春から「春のまつり」「むらの縁日・夕涼み」「秋のまつり」「北総四都市デー」「むらのお正月」「さくらまつり」とまた春へと一年をぐるりと巡るように、それぞれ特徴のあるまつりを開催しています。八月には「むらの縁日・夕涼み」を実施しました。

このまつりでは、「涼む」をテーマに、夏にちなんだ製作体験やイベントなど縁日の賑わいや夕涼みの雰囲気を楽しめます。

昨年度につづき、夏の怪しさを少し取り入れた内容とし、大道芸を中心に、足が長く背の高い雅な雰囲気着物をまとった「笑う狐様」、人間と仲良くなりたい人懐っこい「化猫」と「一つ目小僧」、どこか悲しげでかつ怪しげな「骸骨女」などといった、妖怪が現れました。小さな子どもが怖がりながらも触れ合っていく姿はほほえましく印象的でした。



化猫と一つ目小僧

その他にも商家の店先には妖怪に関する怪しげな張り紙が張られていたり、夕方から暗くなる頃には、障子からうつすらと見える妖怪の影絵など、見つけたお客様に何だろうと笑ってもらえたり雰囲気味わってもらえたりとこっそり仕掛けをほどこしていました。

体験演目では、「金魚すくい」「ほおずき提灯作り」「切り絵のうちわ」など夏にちなんだ演目も多く用意していました。

その中でも「ほおずき提灯作り」は、夕方から始まる演目で、おりがみでほおずきに見立てた袋部分を作り、内側に小さな灯りを入れ、持ち手がついた小ぶりの提灯を作ります。暗くなり始めた商家町並みでほおずき提灯を手に歩いている方々の姿はとても雰囲気があり、「むらの縁日・夕涼み」ならではの光景について追ってまいります。

今回のまつりは、十月初旬に「秋のまつり」を実施予定です。どんな演目が実施されるのか、ぜひ皆さま足をお運びください。

(広報・普及グループ 牧)



一つ目小僧と子ども

まつり開催時の注意事項

まつり当日は駐車場が大変混雑いたします。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

また、館内はテント類の設営、ボール等の遊具の持ち込みは禁止です。まつり開催期間中は、コスプレでの撮影の予約は受け付けておりません。ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

◇編集後記◇

昨年も酷暑が続きましたが、今年も六月から既に三十度近い気温の日もあり、じつとりとした暑さが続いたように感じます。

今年度、上半期のまつりでは新たな試みとして、春のまつりで下駄飛ばしやかるたで来館者の皆様で競い合う「ぼうじろー杯」を、むらの縁日・夕涼みでは開館時間を十二時から十九時三十分へと変更してお届けしましたが、いかがでしたでしょうか。来館者の皆様が心地よく過ごせるよう、今後も尽力して参ります。明日から十月となりますが、当館を散策する際はまだまだ暑さ対策をお忘れなきようお願い致します。

(広報・普及グループ 岩瀬)

令和7年度 下半期のイベント

●秋のまつり

10月4日(土)・5日(日)

●屋外展示「千葉の民俗芸能-房総獅子舞祭-」

10月18日(土)～11月24日(月・振)

●歴史の里の音楽会

10月13日(月・祝)

●文化の日・日本遺産北総四都市デー

11月3日(月・祝)

●企画展

「房総の海辺のムラ-漁撈から見た人々の暮らし-」

12月6日(土)～令和8年2月1日(日)

●むらのお正月

令和8年1月3日(土)・4日(日)

●さくらまつり

令和8年3月20日(金・祝)～22日(日)・24日(火)・25日(水)

※上記以外に多くの実演・体験をご用意しております。詳細は令和7年度体験のしおり、または当館ホームページをご覧ください。